



FUTURE FORWARD >>

2025年CIOの戦略的展望：
テクノロジーリーダーの最優先課題

目次

- 世界におけるテクノロジーへの意識
- 高まるサイバーセキュリティリスク
- AIイノベーションの継続的推進
- テクノロジー人材のスキルギャップ解消
- 主要なステークホルダーの賛同を得る

- テクノロジーリーダーが今取り組むべき優先事項

エグゼクティブサマリー

Experisがリリースした「2025年CIOの戦略的展望」では、現代のCIO（最高情報責任者）が担う役割、直面する課題、そして最優先事項について詳しく解説しています。本調査では、世界のテクノロジーチームがどのようにしてIT部門の未来を形成し、組織の収益性と持続的な成長に貢献しているのかを明らかにするため、経営幹部のテクノロジー担当役員480人とITに関する上級意思決定者913人を含む、合計1,393人のリーダーを対象に調査を実施しました。



世界のテクノロジーチームがIT部門の未来をどのように形成しているのかを探るため、以下のリーダー層に調査を実施しました。

1,393人の

グローバル
テクノロジーリーダー

480人の

CIO（最高情報責任者）
および
CTO（最高技術責任者）

913人の

IT意思決定者

本調査「2025年CIOの戦略的展望」は、9カ国の金融サービス、IT、通信、エネルギー、製造業など多様な業界の、中規模から大規模の企業を対象に実施されました。テクノロジーの進化を、いかに具体的なビジネス成果へとつなげていくかを見極める上で、ITリーダーが果たす役割を理解するための重要な指針を提供しています。

CIOポジションに至るまでの歩みは、非常に複雑で多面的です。約1,400人の調査回答者および18人のインタビュー回答者から得た知見からも明らかに、テクノロジーリーダーたちは、それぞれ異なる視点でこの職務を捉えています。リーダーたちが現在のポジションについた経緯や、テクノロジーチームを率いてきた経験は人によって異なります。しかし、CIOやIT意思決定者は、組織の長期的な健全性と成功のために、自身の取り組みをどのように展開するのが最も効果的かという点で、多くの共通認識を持っています。



テクノロジーリーダーは、これまで以上に他部門との連携を重視し、起業家精神（アントレプレナーシップ）をより強く持つようになっていきます。彼らは、ギグワークや生成AIといった新たなトレンドを積極的に受け入れることで、自社をテクノロジー分野の先駆者として位置づけることに貢献しています。また、CHRO（最高人事責任者）やCFO（最高財務責任者）を含むIT部門以外の同僚との関係構築を重視し、共感をもってリーダーシップを発揮することを大切にしています。

最も重要なのは、テクノロジーリーダーが生成AIの過熱した評判にとらわれることなく、テクノロジーインフラ全体をどのようにビジネスニーズに適合させ、費用対効果（ROI）の最大化を迅速に実現できるかに注力している点です。この取り組みには、AIの限界を正しく理解し、その活用に適切なガバナンスを導入することが含まれます。さらに、ビジネス戦略とテクノロジーを融合させた新たな責任領域を担うことや、サイバーセキュリティを優先し、ITデータとオペレーションの安全を確保することも重要な要素です。

主な調査結果



サイバーセキュリティの脅威の拡大は、世界中のテクノロジーリーダーにとって最大の懸念事項となっています。



2025年のテクノロジー投資で最も注目される分野は、サイバーセキュリティ（77%）、クラウドインフラ（68%）、AI（67%）です。



世界中のIT業界における雇用主の大半（76%）は、**必要なスキルを持つIT人材の確保に依然として苦戦している**と回答しています。また、大学のカリキュラムが急速な技術進化のスピードに追いついていないことを懸念する声も多く寄せられています。



テクノロジーリーダーの過半数（52%）は、既存のポジションに**AIに関する新たなスキルを導入することに取り組んでいる**と回答しています。



デジタルトランスフォーメーションが長期的なビジネス戦略にますます大きな影響を与える中、テクノロジーリーダーたちは、IT部門以外との連携の重要性を認識しています。その中でも、**COO（最高執行責任者）との緊密な関係構築が最も重要であると述べています。**



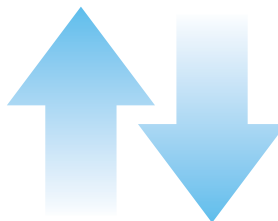
高い成果を上げているITチームは、**顧客中心主義に最も注力していることがわかりました。**

CIOの視点:テクノロジーが働く世界を変革する

進化し続けるサイバーセキュリティの脅威は、CIOにとって夜も眠れないほど懸念している最大の要因であり、41%がこれを挙げています。これに続く懸念事項は、AIへの対応と統合(19%)、そしてテクノロジーシステムの最適化・スケーリング・更新(15%)です。CIOと比較すると、それ以外のITリーダーたちは将来を見据えるよりも、現行の業務を維持することに注力している傾向があります。

AIに関しては、こうしたテクノロジーの活用を積極的に進める一方で、その限界や、倫理・透明性を確保するための適切なリスク管理の必要性を強く認識しています。例えば、回答者の36%は「AIはゲームチェンジャーであるものの、さらなる改善が必要」と考えており、33%は「AIがビジネスにもたらす影響はまだ不透明である」と答えています。

36%は
「AIはゲーム
チェンジャーで
ある」と回答



33%は
「AIがビジネスにもたらす
影響はまだ不透明である」
と回答

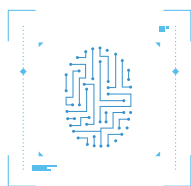
2025年においてもIT人材不足は続いており、採用ペースは景気の低迷とAIブームの影響によって抑制されています。従来IT分野の人材は大学新卒者から採用されることが多かったものの、大学のカリキュラムがテクノロジー業界のスキルニーズに追いついていないため、現在ではスキルギャップがさらに拡大しています。

また、ITリーダーは、学生が必要なスキルを学校で十分に習得できていないと感じている一方で、社内でのスキルアップ支援も十分ではないと考えています。実際、最新技術に関する継続的な研修プログラムを定期的実施していると回答した企業は、わずか28%にすぎませんでした。

「サイバー攻撃はますます頻発しています。私が夜も眠れないとしたら、それは自社のセキュリティ対策が果たして十分なのか、不安になるからです。」

—アメリカのIT戦略ディレクター

CIOが 直面する課題



サイバーセキュリティ

41%

AI/ノーバージョンと統合

19%

新技術への対応

15%

リスクとコンプライアンスの管理

9%

IT運用の安定維持

7%

顧客ニーズへの対応

6%

戦略的計画立案

5%

コスト管理

5%

ITリーダーやCIOにとって、変化に対する人々の抵抗は、ソリューション導入の大きな障壁となっています。実際、ITリーダーの28%が、社内の抵抗への対応に最も多くの時間を取られており、本来注力すべき重要な業務にかけられる時間が奪われていると報告しています。また、当社の調査によると、テクノロジーが職場で不可欠な存在となっているにもかかわらず、CIOの約4分の1 (23%) が、社内のステークホルダーに対して、ITの価値をいまだに説明する必要があると感じていることが明らかになりました。

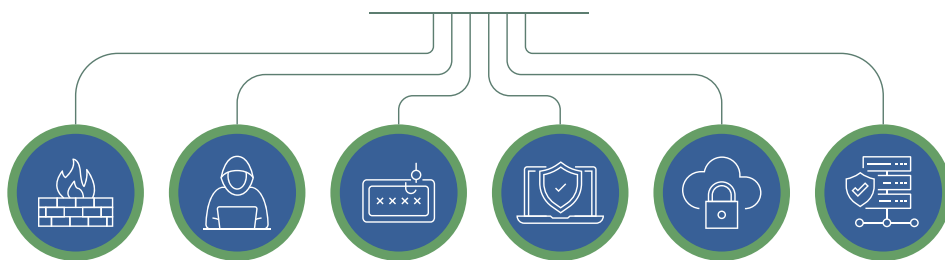
課題はあるものの、ITリーダーの多くは、今後の1年を前向きに捉えています。特にクラウドサービスやインフラを含む新技術の統合に大きな期待を寄せています。回答者の約3分の1 (32%) は、予測データ分析や最適化によって組織変革が加速される可能性に最も注目しており、クラウドコンピューティングと拡張可能なインフラが、高い費用対効果 (ROI) をもたらす可能性にも期待を寄せています。

当社の調査では、世界の主要市場において、テクノロジーリーダーが直面する課題を詳細に分析しました。また、サイバーセキュリティ、AI、スキルギャップ、主要なステークホルダーとの連携、そして組織全体の成熟度といった、テクノロジーの優先課題に対するリーダーたちの考えや認識も浮き彫りになっています。

「CIO、CTO、CISOとして、あなたが夜も眠れなくなるほど不安を抱えている課題は何ですか？」

※CIOの回答のみを集計 (調査対象者数:175人)

「私が夜も眠れぬほど悩まされているのは、データセキュリティへの懸念と技術革新とのバランスをどう取るかという問題です。特に恐れているのは、システムが未知の攻撃にさらされ、データ漏洩を引き起こす可能性があることです。」 -ノルウェーのCIO





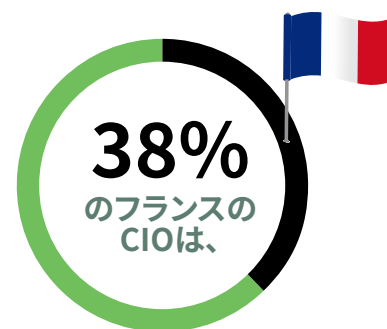
世界におけるテクノロジーに対する認識

世界中のCIOは、世界共通の技術的課題に直面しています。アメリカからノルウェーに至るまで、リーダーたちは、拡大するサイバーセキュリティの脅威への対応や、加速するデジタルイノベーションの緊急課題に取り組んでいます。しかし、当社の調査では、最も先進的なグローバル経済圏では、明確な違いも見られました。

フランス

フランスでは、テクノロジーリーダーたちはサイバーセキュリティを最も重視しており、46%がそれをCIOの最も重要な任務と考えています。これは本調査対象国の平均値である35%を上回る数値です。また、64%がサイバーセキュリティを2025年のITスタッフに求められる重要なスキルと見なしており、これも平均の46%を超えています。

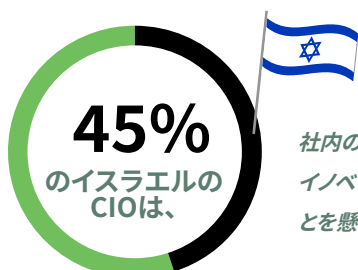
AIは変革を促進しており、AIブームにより採用活動が加速(33%vs.平均22%)するほか、合成データ(33%vs.平均23%)や量子コンピュータ(23%vs.平均12%)への関心も高まっています。一方で、予算確保に関する課題(38%vs.平均25%)も指摘されています。



十分な予算確保のための提言が最大の課題であると述べています。

イスラエル

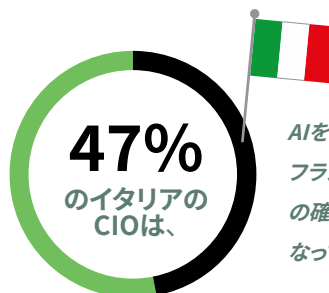
イスラエルでは、テクノロジーリーダーたちがAIに対して特に懐疑的な見方をしており、43%がその長期的な実現可能性に疑問を抱いていると回答しています。これは、世界平均の20%と比較して高い割合です。この懐疑的な見解が影響し、イスラエルではAIの導入が遅れており、48%の企業がまだAIの活用方法を模索している段階にとどまっています。また、45%のCIOは、社内の変化に対する抵抗が大きな課題であると認識しています。さらに、イスラエルのCIOは、AIソリューションの提供(2%vs.平均13%)やイノベーションの推進(6%vs.平均14%)よりも、デジタルトランスフォーメーションの推進(32%・平均23%)、規制への遵守(32%vs.平均20%)、IT戦略とビジネス目標の整合性(44%vs.平均34%)を優先しています。



社内の変革に対する抵抗がAIイノベーションの停滞を招くことを懸念しています。

イタリア

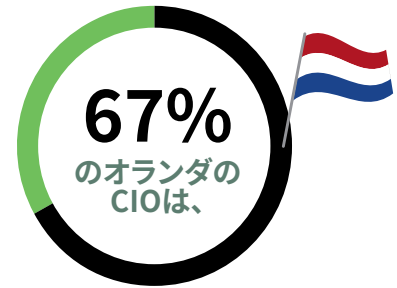
イタリアは、2025年に予算増額を計画している企業が86%と世界平均の77%を上回り、サイバーセキュリティ投資において世界をリードしています。予算の確保には課題があるものの(35%vs.平均25%)、新技術の導入は従業員の受け入れに合わせ進めています(87% vs. 平均78%)。また、新興技術の推進にも積極的であり(24% vs. 平均14%)、IoTの導入も進んでいます(35% vs. 平均25%)。AIをゲームチェンジャーとして捉えている企業は47%に達し、AIの長期的な有効性に対する懐疑的な見方も少ない(11% vs. 平均20%)ことから、変革を受け入れ、技術の発展に向けた準備が整っていることが伺えます。



AIをゲームチェンジャーと捉えており、フランスのCIOと同様に、十分な予算の確保(35%)がますます大きな課題になっていると考えています。

オランダ

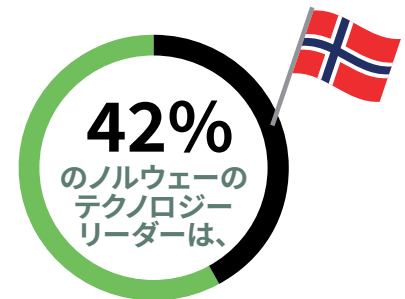
オランダは、サステナビリティと透明性において最前線に立ち、テクノロジーリーダーは、よりグリーンな技術への移行を通じてカーボンフットプリントの削減を推進しています(67%vs.平均57%)。また、AIシステムの透明性とバイアスを排除した公正性の確保にも注力しており(66%vs.平均54%)、**将来のITリーダーを育成するためにリーダーシッププログラムを定期的実施している割合も高くなっています(34%vs.平均22%)**。一方で、SaaS(76%vs.平均66%)やレガシーシステムの保守・管理(55%vs.平均44%)といった、より成熟したテクノロジートレンドへの対応については、やや後れを取っており、追いつくために対応を進めている状況です。また、サイバーセキュリティやAIスキルをIT人材の必須スキルとして重視する傾向は相対的に低くなっています。



テクノロジーが
グリーン・ビジネス・トランスフォーメーションに
重要な役割を果たすと考えており、
66%はAIシステムの透明性とバイアスの排除を
優先したいと回答しています。

ノルウェー

ノルウェーでは、テクノロジーリーダーたちにとってサイバーセキュリティの優先度は他の地域よりも低く、トップの責任としてみなしているのは23%にとどまり、グローバル平均(35%)を下回っています。また、サイバーセキュリティ(64%)、クラウド(59%)、AI(54%)への投資額についても、グローバル平均を下回っています。2025年において、IT人材にとってサイバーセキュリティが重要なスキルであると考えている企業は34%で、これはグローバル平均の46%よりも低い割合です。また、リスク戦略の整合性についても、他の地域より低い水準(67%vs.平均77%)であると報告されています。一方で、**ビジネスリーダーとの緊密な協力(42%vs.平均30%)やデジタルワークスペースへの投資(75%vs.平均60%)に重点を置く企業が多いことも特徴です。**

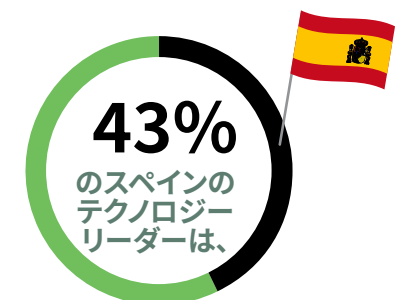


ビジネスリーダーとの連携を優先し、コラボ
レーションを促進するデジタルワークス
ペースへの投資を重視(75%)しています。

スペイン

スペインのテクノロジーリーダーは、現状維持を重視する傾向が強く、AIによる変化は他国に比べて限定的です。採用方針に変化がないとする回答は30%にのぼり(グローバル平均19%)、AIブームを受けて採用を加速していると答えたのはわずか12%(グローバル平均22%)にとどまっています。また、予測データ分析と最適化を優先事項とする企業の割合が高く(43%vs.平均32%)、2025年の成功に向けては、COO(最高執行責任者)との連携が鍵を握ると考えるリーダーも多く見られます(39%vs.平均28%)。

ただし、CIOは経営陣の知識不足(70%vs.平均56%)や監査頻度の低さ(19%vs.平均29%)という課題に直面しています。

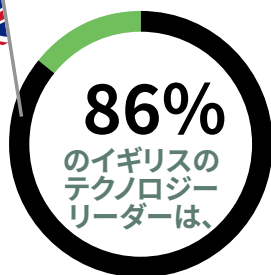


予測データ分析への期待が最も高まっています。
一方で、経営陣の多くがCIOの役割について
十分に理解していないと考えており、70%が
この知識不足を重要な課題と認識しています。

イギリス

イギリスのテクノロジーリーダーは、AI導入の推進に対して慎重かつ計画的なアプローチを取っています。組織の変革目標に沿った投資戦略を策定している割合は他国よりも高く(86%vs.平均78%)、AIプロジェクトについてステークホルダーと頻繁にコミュニケーションを図る傾向があります(41%・平均32%)。また、新技術に関するオンラインリサーチも積極的に行っており(61%vs.平均51%)、AIが現在、自社業界に変革をもたらしていると捉える割合も高くなっています(35%vs.平均25%)。

その一方で、技術系大学の卒業生を人材候補として検討する割合は最も低く(22%vs.平均32%)、結果として、活用可能な人材プールを狭めている可能性があります。



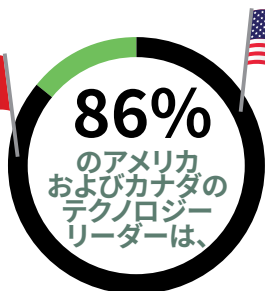
テクノロジー投資を組織の変革目標に整合させることが重要と考えており、41%はAIプロジェクトにおけるステークホルダーとの頻繁な対話を重視しています。

アメリカおよびカナダ

北米のテクノロジーリーダーは、サイバーセキュリティへの懸念が特に強く、56%が夜も眠れないほどの課題と感じており、これはグローバル平均の44%を上回っています。2025年にサイバーセキュリティ予算の増額を予定している割合も高く(86%vs.平均77%)なっています。

また、サイバーセキュリティトレーニングを頻繁に実施している企業も多く(41%vs.平均32%)、AIの導入においても先頭に立っています。

43%がAIによる生産性の向上を実感しており、37%はAIが自社業界を変革していると捉えています。AI関連の投資にも積極的で、84%が支出増を予定しており、71%がオートメーション化に注力しています。



サイバーセキュリティを最重要視しており、その投資強化が最も重要な取り組みと考えています。加えて、AIイノベーションへの予算も増加しています。

「今年は、AIの取り組みに実際の予算が組まれた初めての年です。過去2年間は試験的な段階にありましたが、現在は具体的な投資が進められており、この投資によって、ビジネス価値を生み出すことが期待されています。」

— アメリカのクラウドコンピューティング&データ担当 CIO

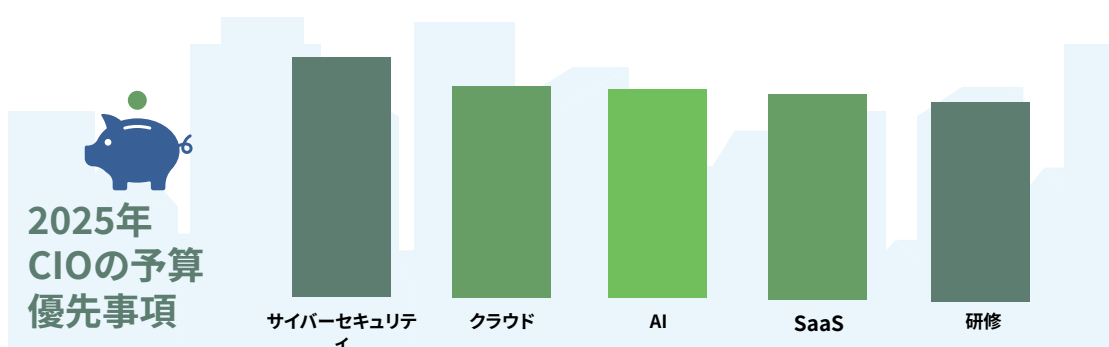
高まるサイバーセキュリティリスク

サイバーセキュリティベンチャーズ社の最新調査によると、2024年のサイバー犯罪による世界全体の損失額は9.5兆ドルに達しました。¹これを仮に一国の国内総生産（GDP）に換算した場合、アメリカ・中国に次いで世界第3位の経済規模に相当します。

調査回答者の多くは、自組織が直面する潜在的リスクを認識しており、35%が「サイバーセキュリティの強化」をCIOの最も重要な責務と考えています。今日のCIOは現在の脅威への対応に加え、将来のリスクを予測し、その対策を講じることも求められています。

こうした認識は投資分野の優先順位にも反映されており、2025年には調査対象となったテクノロジー関連の企業の77%が、サイバーセキュリティ予算の増加を計画していると報告しています。

しかし、資金投資だけでは十分な対応にはなりません。調査結果によると、テクノロジー関連の組織ではサイバー脅威への対応方針が統一されておらず、リスク戦略がサイバーセキュリティの実態と高いレベルで整合していると回答した割合は37%にとどまりました。また、サイバーセキュリティ技術を強化しても、すべての従業員がその技術を十分に活用できるとは限りません。新技術の導入が従業員の活用状況と十分に一致していると答えた割合も30%未満でした。



2025年のIT予算について、貴組織は以前と比較して、次の優先事項にどの程度の投資を計画していますか？
（「大幅に増加」「やや増加」と回答した割合（調査対象者数：1372人）

「産業界では、長らくサイバーセキュリティへの意識が低い状態にありました。1970～80年代に産業拠点が整備された当時は、クローズドな専用システムが主流で、外部からの攻撃を受けにくい環境でした。しかし、ここ10年で状況は劇的に変化し、産業拠点の脆弱性が明らかになりました。その結果、大規模なアップグレードと変革プログラムが実施されています。」
— フランスのCIO

¹ <https://www.secureworks.com/centers/boardroom-cybersecurity-report-2024>

AIイノベーションの継続的推進

この2年間、AIは世界中の注目を集めてきましたが、当社の調査では、CIOたちはその即時的な有用性についてより慎重で現実的な考え方をしていることが明らかになりました。例えば、CIOやテクノロジーリーダーの回答者のうち、AIソリューションを提供することが、組織の成功に向けたCIOの最優先事項の1つであると考えたのは、わずか13%にとどまりました。

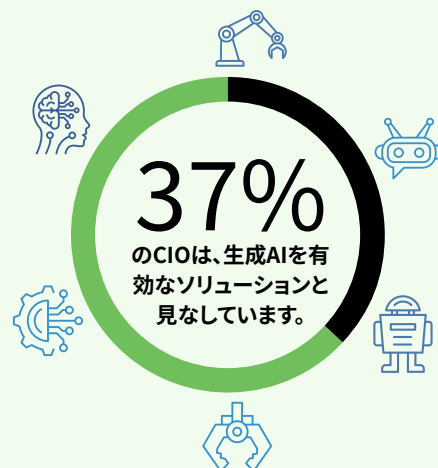
CIOたちは生成AIの価値を認識し、その将来的な可能性に期待を持っていますが、一方でこの技術がまだ発展途上にあり、今後更なる進化が求められる段階であることも認識しています。現時点では、**全体のわずか37%のCIOしか生成AIを特定の用途で価値を発揮するソリューションと見なししていないものの**、多くの組織は、調査段階(33%)または実装段階(27%)にあり、活用に向けた取り組みを進めています。

AIイノベーションが進展する中、より多くのテクノロジーリーダーがその影響を考慮し始めています。**約5人に1人(18%)がAIの倫理的影響に懸念を抱いており、AIシステムが透明性とバイアスを排除した公正性を十分に確保できていると考える回答者は、わずか20%に過ぎませんでした。**

多くのリーダーは、AIの潜在能力を最大限に引き出すためには、継続的な支援と慎重な計画のもとでの統合が不可欠であると認識しています。実際の調査では、回答した組織の67%が、2025年にAIへの投資拡大を計画していることが判明しました。

今後、企業が「エージェンティックAI」のような高度なツールを導入し始めるにつれ、こうした取り組みの重要性は今後さらに高まるでしょう。エージェンティックAIとは、単なる問答型の生成AIチャットボットを超え、人の指示なしで業務を遂行できる自律型AIエージェントを指します。

生成AIに対する意識



特定の用途で価値を発揮

37%

将来的なゲームチェンジャー

36%

将来の有効性は不透明

33%

将来的には革命的な存在

30%

現在の生産性向上を支える要素

29%

現在、生成AIについてどのように感じていますか？
(調査対象者数:1,393人)

「私たちは生成AIの潜在能力が日々の業務効率を向上させると確信しています。従来型のAIについてはすでに高度なスキルを持つ人材を有しており、その価値を最大限に引き出すため、新たなプロジェクトに積極的に取り組んでいます。」– フランスのCIO

テクノロジー人材のスキルギャップ解消

CIOやテクノロジーリーダーの大半(81%)が、IT人材の採用傾向に変化が表れていると回答しています。中でも、**32%の組織がクラウドコンピューティングやサステナビリティ技術といった戦略的分野での採用を拡大しているとしています。**こうした動向によって、スキルを持つ人材の確保が一層難しくなる可能性があります。

実際、マンパワーグループが最近実施した人材不足調査によると、IT業界の76%の企業が必要なスキルを持つ人材の確保に苦戦していると回答しています。²また、本調査では、人材不足を背景に、テクノロジーリーダーが採用戦略や職務設計に工夫を凝らしていることが判明しました。



IT人材の採用予算が限られている状況にもかかわらず、回答した企業は依然として外部から優れた候補者を探し求めています。調査対象国における平均では、**スキルの高いIT人材のうち32%は外部からの採用で、21%は社内の人材です。**最大の人材供給源は、他社や競合企業の人材(44%)であり、次に大学新卒者(42%)が続きます。

テクノロジーリーダーは、ソフトスキルとテクニカルスキルの両方を兼ね備えた候補者を求めています。特に、サイバーセキュリティ(46%)、AI(35%)、クラウドコンピューティング(34%)といった優先分野に対応できる人材を求めると同時に、部門を超えた協力を通じて全社的な課題を解決する能力を持つ人材(23%)に注目しています。

引き続き新卒採用に力を入れている一方で、多くの回答者は、大学のカリキュラムよりも、オンラインコースや認定資格の方が効果的な学習手段となるケースが多いことを認識しています。**IT人材がスキルを向上させる最も生産的な方法について尋ねたところ、リーダーたちは、実務経験(47%)、会社主導の研修プログラム(42%)、対面での研修プログラム(35%)を挙げました。**

「ソフトウェア開発チームの一員として働こうとしている人は、企業全体で協力しながら業務を進める力や、課題に対して実践的なアプローチを取るなどといったソフトスキルを身につける必要があります。これらのスキルは非常に価値があり、誰もが持っているわけではありません。」– アメリカのCTO(税務・監査部門)

² <https://go.manpowergroup.com/talent-shortage>

CIOやテクノロジーリーダーはスキルギャップへの対応策として、職務の再設計に積極的に取り組んでいます。例えば、既存の職務にAIスキルを組み込む(52%)、技術的な専門知識と戦略的思考を組み合わせる(42%)、職務の汎用性を高める(37%)といった取り組みが挙げられます。業務要件を満たし、現場でのスキル習得を効率化するための職務の再設計を実施していないと回答した企業は、1割未満(8%)にとどまりました。

トップパフォーマーは、
どのようにしてテクノロジー
スキルを身につけているのか



実務経験

47%

会社主導の研修プログラム

42%

対面での研修プログラム

35%

自己学習 / 実践による習得

35%

オンライン研修コース

35%

認定資格 / 短期集中研修

32%

ピアツーピア学習(同僚との学び)

28%

大学での教育

23%

趣味を通じた学び

7%

最も生産性の高い人材は2025年も成果を上げられるよう、どこでスキルを習得しているのでしょうか？(調査対象者数:1,393人)



ExperisとServiceNow社、 テクノロジー人材不足の 解消に向けた提携を発表

IT専門人材サービスの世界的リーダーである**Experis**と、グローバルソフトウェアのリーディング・カンパニーである**ServiceNow社**は、格差が広がるテクノロジースキルのギャップに対応するため、最近新たなグローバルパートナーシップの締結を発表しました。

Experisは、ServiceNowのRiseUpプレースメントパートナーとして、**Experisアカデミー**を通じて世界中のServiceNowポートフォリオに関わる従業員のスキル向上とトレーニングを世界規模で支援しています。このアカデミーは、特定の職務に必要なすべての技術スキルを持たない候補者であっても、適切な行動特性やマインドセット、能力を備えていれば幅広くアプローチし、そうした人材に、職務のニーズに合わせて設計・カスタマイズしたトレーニングプログラムを通じてスキル向上を図る、革新的なITソリューションです。

Experisはプレースメントパートナーとして、ServiceNowのプラットフォームを活用し、100万人のスキル向上を目指す、**RiseUp with ServiceNow**の取り組みを支援しています。従来のテクノロジー人材の定義を広げ、批判的思考力、対人コミュニケーション力、創造力といった「全人格的」能力や「パワースキル」の重要性を強調しています。

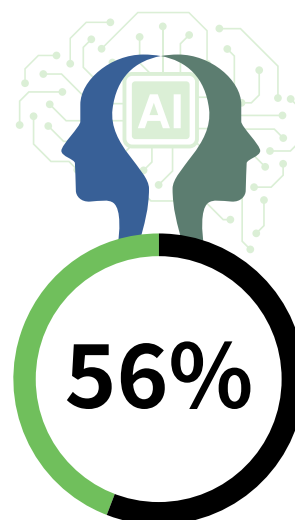
主要なステークホルダーの賛同を得る

CIOが直面する多くの課題は、テクノロジー領域にとどまらず、複数の社内部門との協力を必要とします。ガートナー社が実施した400人以上の経営者を対象とした最近の調査によると、ほとんどの企業は同時に最大5種類の複雑なプロジェクトを推進していることがわかりました。これらの各プログラムは、5～8の企業部門と20～35のチームメンバーが関与する可能性があります。³

このように前例のないレベルで進む部門横断的な協力体制を踏まえると、他チームの目標を理解し共感する能力は、現役のITリーダーや次世代のITリーダーにとって欠かせないスキルとなっています。

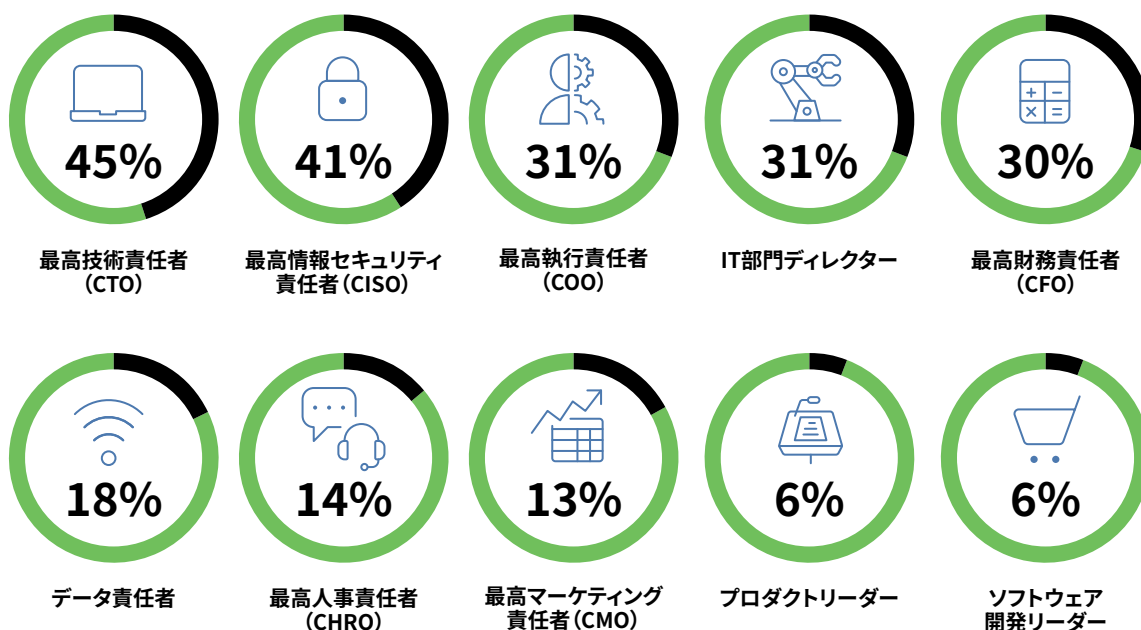
本調査に回答したCIOたちは、経営幹部層との関係性を重視しており、特にCOO（最高執行責任者）との連携が、2025年の成功において最も重要な要素と見なしています。

一方で、CFO（最高財務責任者）、CHRO（最高人事責任者）、CMO（最高マーケティング責任者）との連携は、比較的重要度が低いと見なされています。新たなIT規制の注目度が高まっているにもかかわらず、法務責任者やデータ責任者への関心は限定的であることが判明しました。



ITリーダーの半数以上が、シニアリーダー層はCIOの役割について理解が不十分であると回答しています。

CIOが重視する戦略的パートナーシップトップ10



多くのITリーダーシップの役割が部門横断的であることを考慮し、2025年の成功に向けて、直属の上司以外にどの同僚との関係が最も重要だと思いますか。CIOの回答のみ（調査対象者数：175人）

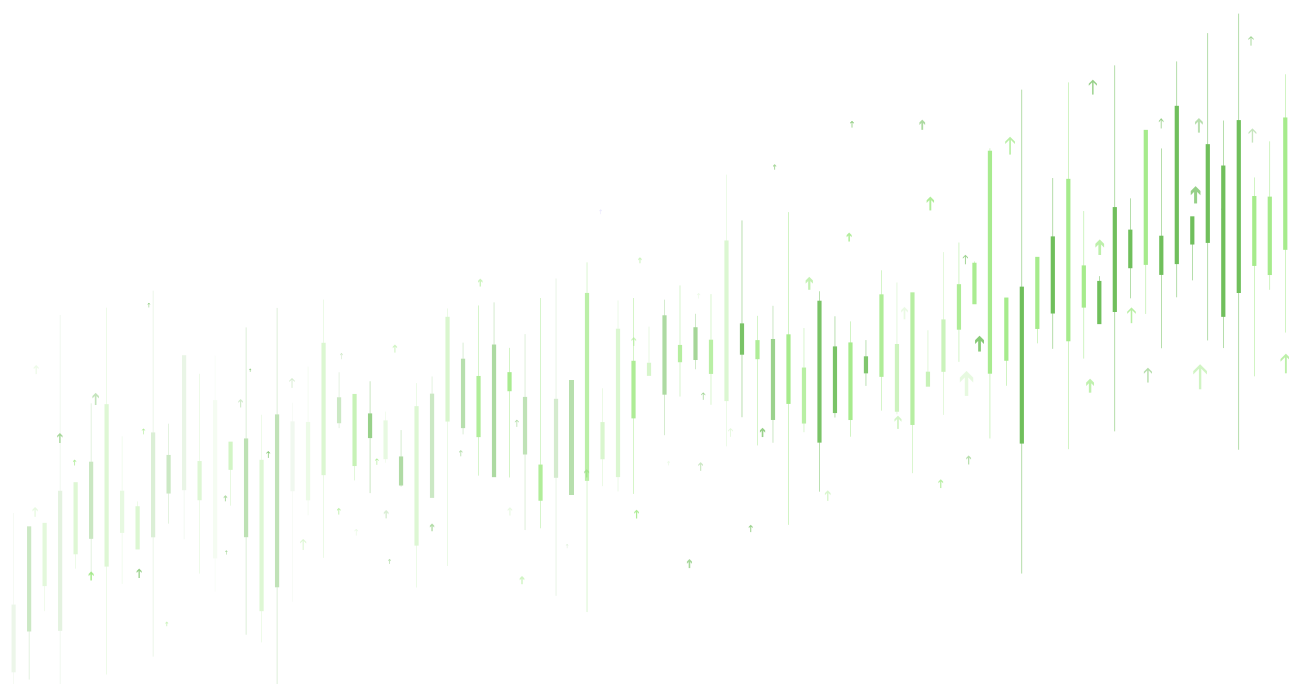
³ <https://hbr.org/2024/06/why-cross-functional-collaboration-stalls-and-how-to-fix-it>

他の経営幹部層と同様に、CIOには、組織のリーダーたちの期待を管理し、重要な課題やアプローチに関して彼らの賛同を得る責任があります。しかし、これは必ずしも容易なことではありません。実際に、ITリーダーの過半数（56%）が、シニアリーダー層はCIOの役割に対する理解が不十分であると回答しています。CIOは、取り組みへの迅速な承認を得ることや、組織内の縦割り構造を克服することなど、社内の障害に頻繁に直面しています。

ITチーム内では、CIOはCTO（最高技術責任者、45%）とCISO（最高情報セキュリティ責任者、41%）との関係を最も重要なパートナーシップと見なしています。また、AI導入を全社規模で拡大している企業のCIOは、CTOとの関係をさらに重視する傾向があり、その割合は66%に上ります。

「2025年に、最も重要なスキルは共感力だと思います。私たちはテクノロジーをビジネスでどう活用するかを日々学んできました。それが私たちの役割です。しかし、現在のビジネスが直面している不安定な状況や課題を考えると、共感力は、同僚だけでなく、パートナー、サプライヤー、さらには広範なコミュニティに対しても欠かせないものです。あらゆる意思決定において、共感とインクルージョン(包摂)を基盤に行動することこそ、私たちが決して忘れてはいけないスキルです。」

– イギリスのデジタルテクノロジーおよびデータ担当ディレクター



主要分野における取り組みの進捗度



「2025年CIOの戦略的展望」調査では、組織は5つのカテゴリーに分類されることが判明しました。これらのカテゴリーは、サイバーセキュリティ、リスク管理、デジタルトランスフォーメーション、サステナビリティ、倫理的な取り組みといった主要分野における進捗度によって定義されています。

フロントランナー(先頭グループ/ 24%)

は、IT分野で高度なビジネス成果を達成していると報告する層です。顧客志向のIT戦略を重視していることが、他の層との差別化要因となっています。

フロントランナーの優先事項



- 1.顧客志向の技術戦略
- 2.デジタルトランスフォーメーションにおける主導
- 3.ビジネス戦略との整合性

チェイサー(追随グループ/ 26%)は、持続可能性や倫理などの重要な領域では、フロントランナーに若干遅れを取っていますが、依然として強力なビジネスパフォーマンスを報告しています。

チェイサーの優先事項



- 1.ビジネス戦略との整合性
- 2.顧客志向の技術戦略
- 3.デジタルトランスフォーメーションにおける主導

フォロワー(中堅グループ/ 16%)は、中程度の進展を遂げており、全体的に良好な進捗状況を報告しています。しかし、データガバナンスなどの領域では成果が伸び悩んでいます。

フォロワーの優先事項



- 1.ビジネス戦略との整合性
- 2.顧客志向の技術戦略
- 3.サイバーセキュリティとリスク管理

ラガード(後方グループ/ 20%)は、一部の領域では進展が見られるものの、倫理やサステナビリティの分野では課題が残っています。

ラガードの優先事項



- 1.サイバーセキュリティとリスク管理
- 2.デジタルトランスフォーメーションにおける主導
- 3.ベンダーマネジメント

スヌーザー(停滞グループ/ 14%)は、新たなトレンドの導入に対して慎重であり、時代の変化に応じた組織の再構築にも消極的です。このような企業はAIに対して懐疑的で、2025年にIT投資拡大も見込んでいません。また、空きポジションの人材確保に関しては外部の候補者を求める傾向があり、変化に対する社内の抵抗がCIOにとっての主な障壁となっています。

スヌーザーの優先事項



- 1.サイバーセキュリティとリスク管理
- 2.ベンダーマネジメント
- 3.ビジネス戦略との整合性



次項の「テクノロジーリーダーが今取り組むべき優先事項」では、テクノロジーリーダーが「スヌーザー(停滞グループ)」から「フロントランナー(先頭グループ)」へと移行できるようなベストプラクティスが数多く共有されています。是非ご確認ください。

テクノロジーリーダーが今取り組むべき優先事項

以下の施策は、ITリーダーが高い成果を生み出すチームを構築し、組織の成熟度を高めていく上で重要な役割を果たします。



サイバーセキュリティは、単なる技術的な課題ではなく、サイバー脅威を把握し適切に対応するには、人々の力が不可欠であることを認識しましょう。組織の安全を確保するには、全社的な取り組みが求められ、IT部門以外からの支援や協力を得ることも重要です。



AIに即時の成果を期待し過ぎないようにしましょう。

現時点でのAIの能力を的確に見極めたうえで、AIを活用したビジネス課題の解決策を模索し、試行的な取り組みや投資を進める柔軟な姿勢が求められます。



人事部門と緊密に連携しましょう。新しく多様な採用戦略を導入することで、必要なタイミングと場所で最適なIT人材を確保することが重要です。従来のIT採用の枠にとらわれず、関連するスキルを持ち、成長や学習の意欲があり、リアルタイムでスキルアップに取り組める人材かどうかを見極めることが大切です。



AI関連スキルを組み込むことで、既存のIT部門の業務を再構築しましょう。特に、AIガバナンスや倫理的側面を考慮したAIスキルの導入が重要です。また、新たな業務の試験的導入や改善に向け、チームの意見を積極的に反映させましょう。



IT人材に包括的な研修を提供しましょう。ハードスキルだけでなく、対面研修や実務を通じたトレーニングを組み合わせることで、共感力、外交的対応力、説得力、協働による問題解決力といったソフトスキルの向上を図ることができます。テクニカルスキルの陳腐化がかつてないほど進行する中、多様なスキルを備えた人材を育成することが不可欠です。



変化への適応を阻む、社内の抵抗感や不安を軽減しましょう。新しい技術を導入する際には、現場で使用する従業員の協力を得ることが不可欠です。そのためには、現実的でストレスの少ない導入計画を立て、新システムの利点を積極的に伝えることが重要です。



投資計画には省エネルギー型データセンターや持続可能な技術の導入を組み込みましょう。これらの技術は、ROI(費用対効果)を定期的に測定することで、迅速な投資回収が可能となり、さらなる革新的なソリューションへの投資を後押しする材料になります。

EXPERIS (エクスペリス) について

ManpowerGroup®のブランドのひとつであるExperis®は、IT分野に特化したプロフェッショナル人材、プロジェクトソリューションを中心としたサービスを提供するグローバルリーダーです。デジタルトランスフォーメーションによって、テクノロジー分野における深刻な人材不足が続く中、ITに関するテクニカルスキルとビジネスの成功に欠かせないソフトスキルを併せ持つ人材をご紹介します。エクスペリスアカデミーでは、幅広い分野の教育機関や企業・組織と連携し、即戦力となるスキルを習得するためのカリキュラムを構成しています。

Experisについては[こちら](#)をご覧ください。

調査方法

Experisは、イスラエル、イタリア、フランス、オランダ、ノルウェー、スペイン、イギリス、カナダ、アメリカの1,393人の技術系シニアリーダーを対象に調査を実施しました。本調査結果は、2024年12月に独立系市場調査会社Reputation Leaders社によって匿名で収集されたオンライン調査の回答に基づいています。あわせて、各市場で詳細な定性インタビューも実施されました。

公式ソーシャルメディア

